

WAU

ディープに伝えるマレーシア文化通信

【ワウ】 Malaysia Cultural Post

SPRING 2018

No. **15**

TAKE FREE

マレーシア Wau (ワウ) のように、
色鮮やかで誇り高いマレーシア
の伝統芸能、ごはん、映画に
焦点をあて、専門家がディープ
に紹介する **フリーペーパー**

Special Interview

若者たちの手で甦った

〈布袋戯〉ポテヒ

Prof. Tan Sooi Beng & Ombak Potehi

WAU Trip - LANGKAWI

ランカウイの自然に包まれ生まれ変わる

Cross-Cultural Comparison: Malaysia and Japan

クロスカルチャー 民族衣装 Baju Kurung x Yukata

バジュクロンと浴衣

WAU's Topics

TOY BOX OF JAPAN 2

東京都とクアラルンプール市 相互観光PRキャンペーン

WAU Gallery

街角で出会う人々の営み



マレーシアに関する情報を伝えるコーナー。日本やマレーシアでのイベント、話題になった出来事などを WAW 編集部がカルチャーな視点でピックアップ!

Event @Malaysia

子どもの才能を発掘する“遊びと学びのおもちゃ箱!”

TOYBOX OF JAPAN 2



昨年、大好評だった子ども向けの知育イベント「TOYBOX OF JAPAN」が、今年もクアラルンプール CUBE_1 でにぎやかに開催中です!今回は4つのセッションがあり、内容はさらに進化。たとえば、楽器の動きにあわせて“音を見る”体験をしたり、自分の描いた絵がスイスイ泳ぎだしたり。日本の最先端テクノロジーを使い、子ども自身が主体的に考え、自然に学びたくなる工夫が随所に凝らされています。また、昔懐かしいトントン紙相撲や伝統コマなど、日本のおもちゃ作りを体験するコーナーもあり、子どもだけでなく大人も楽しめます。遊びながら学んでいく現代ならではの体験型コンテンツ。子どもの好奇心や発想力を引き出すだけでなく、忘れられない思い出になること間違いなし!なお、推奨年齢は4歳以上ですが、会場内のおもちゃは2歳~12歳までの子どもが遊べるようになっているので、家族そろって TOYBOX OF JAPAN の世界に触れてみてはいかがでしょうか。

場所:「CUBE_1」

3F THE CUBE, ISETAN The Japan Store Kuala Lumpur,
LOT10, 50 Jalan Sultan Ismail 50250 Kuala Lumpur, Malaysia.
<http://www.cube1kl.com>
Facebook: Cube1kl Instagram: cube1kl

DNP
大日本印刷

「TOYBOX OF JAPAN 2」

■会期:開催中~2018年4月22日(日) ■開館時間:11:00~21:00(最終入場は20:30まで) ■入場料:子ども(2歳以上~12歳以下):RM25 大人(13歳以上):RM10
※子どもに同伴の保護者家族は、人数に関わらずRM10 ※12歳以下は必ず保護者同伴の上、ご入場ください。推奨年齢:4歳以上

Hati Malaysia 協力

Report @Japan

食文化レクチャー 「多民族国家『マレーシア』の食文化を楽しむ」

去る2月24日、葛飾区の国際交流事業の一貫で、マレーシア食文化講座が開催。Hati Malaysia がレクチャーと料理デモを担当し、30名を超える参加者に向けて、マレーシアの代表料理であるナシレマを紹介。ココナッツミルクでご飯を炊くという、和食にはない料理工程にみんな興味津々の様子。ご飯からふわっと漂うココナッツミルクの香りも手伝って、マレーシアの文化を感じていただけたようです。



Hati Malaysia では、マレーシアについての講演、情報提供を行っています。お気軽にご相談ください。

東京の地下鉄にKLの観光PRポスター

Report @Japan

東京都とクアラルンプール市 相互観光PRキャンペーン

アジア10都市が連携して旅行者誘致を行っているアジア観光促進協議会。今年、クアラルンプール市と東京都がうれしいコラボ!2月5日~3月4日まで(一部は2月18日まで)、東京の地下鉄や駅構内に、クアラルンプールの観光PRポスターがおめみえ。またクアラルンプールでは、東京のポスターが飾られ、ムルデカスクエアの大スクリーンにてPR映像が放映されました。



アジア観光促進協議会 <https://welcomeasia.jp/> (英語のみ)



街角で出会う人々の営み

忘れられないあの味。あの通りの一角にまだあのおじさんはいらるうか。一度その町を離れても、また戻ってきたくなる味があります。

中華寺院の前でニョニヤ・クエ(お菓子)を売る麦わら帽子に立派な口ひげが印象的なおじさん。三輪自転車に大量のお菓子をぶら下げたマレーシア版菓子屋さんは、行く先々で子供達に囲まれます。大きな鍋にぐつぐつと何かを煮込みながら、笑顔を向けてくれる女性は、特製スパイスの量を好みで調整して持ち帰る麺料理屋さんでしょうか。

ペナン島では街角で食べ物売っている人々をよく見かけます。何を売っているのか尋ねてみるといいでしょう。そこから会話が生まれ、売られている物にまつわる話から、彼らがもう何十年もその場所で街の変化を感じながら行き交う人々を見つめ、変わらず物売りをしていることを教えてくれるかもしれません。様々な人間模様が折り重なる街角、それぞれにストーリーがあって、面白い。声をかけると、またこの町が好きになりそうです。



若者たちと、時代にあつた伝統芸能の新たな形を探る

マレーシアでは、中国、インド、中東、アフリカと世界各地の影響を受けながら多様な伝統芸能が発展してきましたが、なかには時代の変化のなかで上演の機会が限られ継承者が育たない芸能もあります。2014年からマレーシアの人形劇「布袋戯〈ポテヒ〉」の詳細な調査を行い、現代の社会にあわせて若者たちとこの伝統芸能を復活させ、昨秋、若者のグループ〈オンパツ・ポテヒ〉とともに来日した、マレーシアを代表する民族音楽学者、タン・スイベン教授にお話を聞きました。



「ペナン島の物語」に登場するカッサムの人形とともに

タン・スイベン 教授

Prof. Tan Sooi Beng

民族音楽学者 / マレーシア科学大学アートスクール教授
Ethnomusicologist / Professor, Universiti Sains Malaysia
マレーシア国内の様々な伝統芸能の調査研究のほか、多民族・多文化の背景を持つ子供たちを対象に、コミュニケーション・アート／シアターを手段としてアートを通じた教育を主導する。主な著書に *Bangsawan: A Social and Stylistic History of Popular Malay Opera* (Oxford University Press, 1993), *Music of Malaysia: Classical, Folk and Syncretic Traditions* (共著) (Ashgate Press, 2004) など。

まつたら、ポテヒはポテヒではなくなつてしまいますから。

——ポテヒの復興には今後どのような展開が考えられますか？

現在は、アジア、東南アジア諸国の他の人形芝居に関心があります。他の芸能の復活の様々な手法を学んだり、他の人形芝居と共同で新しい作品を制作することにより学べることもあると思います。それをペナン島で毎年開催されている George Town Festival^{※2}を通してやり始めています。海外のグループとコラボレーションを通して触れ合い、協働することにより新たな上演のアイデアを得られるだけではなく、海外の人々も若者たちの伝統芸能に対する情熱に関心があるのだ、ということに若い演者たちは喜びを覚えることとなります。そのような経験が伝統芸能に対する長期的な関心を生み、ひいては継承へと繋がっていくのだと思います。

※1 AnakAnak Kota マレー語で「町の子供たち」。ペナン島の子供たちを対象とした文化・遺産教育プロジェクト、民族・宗教の違いを超え子供たちが地域住民から様々なことを実践的に学び、交流し、アート作品やコミュニケーション・シアターなどの形で表現する。(Arts@D主催)

※2 George Town Festivalは2010年から毎年7月、ペナン島・ジョージタウンにて1カ月間にわたる舞台芸術を中心とした文化・歴史に焦点を当てた多数の作品が展開される芸術祭。

——タン先生がこれまで手がけてきた調査や若者たちとの活動について簡単に教えてください。

私はこれまで、アートを通じて多民族の子供たちが共に活動し、存続の危機に瀕している多様な伝統芸能への関心を高めることを大切にしてきました。詳細にわたる調査はとても重要ですが、それだけでは伝統芸能は復活しません。若者たちはその芸能が継承されていくよう、きちんと訓練されなければいけません。そこで、私は AnakAnak Kota^{※1} (後⑤ Ombak Muda) のプロジェクト「Music of Sound」の中でいくつかの方法を試みてきました。

——マレーシアは多民族社会ですが、伝

統文化や芸能は民族ごとにあまり交わることはありません。しかし、先生が手掛ける「コミュニケーション・シアター」では、マレー系、中国系、インド系、宗教も違う子供たちが互いの文化を学び、現代のマレーシア社会を反映しながら多言語で作品が作り上げられています。それらの作品は決して学芸会的なものではなく、芸能に真剣に取り組み、完成度の高いものになっています。伝統芸能を残していく上で、なぜ様々なバックグラウンドを持った若者たちが共に学び、新たに作品を創造していく「コミュニケーション・シアター」に着目したのですか？

コミュニケーション・シアターは、多民族の子供たち、そして伝統芸能の演者たちに消滅の危機に瀕した芸能を継承するための「力」を与える手段となり

得ます。継承者から直接実践的に学んだり、新たな作品を作ることによって、若者たちにも当事者意識が芽生えます。伝統芸能の演者たちも若者が学びに来ることをとても喜びます。寺院での神々に捧げる上演のほかに、様々なフェスティバルやイベントに参加することで演者たちの社会的な立場も改善されます。寺廟からコミュニケーションのより開かれた場上演の場を移すことで、多様な民族、また幅広い年齢層の人々が、失われつつある芸能に触れる機会を作ることができるのです。

——今回来日したオンパツ・ポテヒの新しい作品「ペナン島の物語」では、ペナン島住民が登場人物となりローカルの様々な言語が使われていました。この伝

統芸能を保存継承し、現代社会にあわせて新たな作品を創作する際に大切な要素を教えてください。

様々な民族の老若男女、多様な社会的背景をもった観客を魅了する作品を新しく創作するには、マレーシアの①多民族社会を舞台にし、②様々な民族衣装に身を包んだ多民族の登場人物が、③実社会で使用されている多様な言語を話し、④マレー、中国、インド、西洋などの影響を受けた現代の音楽を取り込みつつも、⑤伝統的な人形の操り方、音楽的要素、楽器や台詞などを守りながら、⑥公の場で多民族の観客に対して上演することが大切です。特に、その芸能の伝統的に受け継がれてきた要素を守ることは大切です。何でも変えてし

若者たちの手で甦ったポテヒ

Potehi, Traditional Glove Puppet Theatre Revitalized by the Hands of Youths



《ポテヒの操り方》

片手の人差し指で人形の頭、親指と中指で左右の腕を操る。手先が動く構造になっているため物をつかんだり、女性的な仕草を表現することもできる。



《マレーシアポテヒならではの衣装》

「ペナン島の物語」では、ニョニヤ^{※3}の女性が伝統的な衣装クバヤにバティックサロンを身につけ、インド系ムスリムのカッシム（右ページ写真）がムスリムの衣装に帽子「ソノコ」を被っているのが特徴的。



《音楽》

ポテヒの上演では、歌やメロディー楽器、打楽器の伴奏が人形の動きや登場人物の感情、シーンの情景を表します。

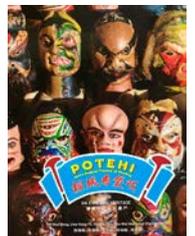


《オンバツ・ポテヒ (Ombak Potehi)》

《Ombak Ombak ARTStudio》を母体とし、人形師、音楽家などからなる若いアート集団。ペナン島に現存するポテヒ・グループ「鳴玉凰 Beng Geok Hong」に師事し、ポテヒの上演を総合的に学び、その復活を試み、新たな作品も創作している。

※3 ニョニヤ (Nyonya) は、15世紀後半からマレーシアに渡って来た中国系男性と現地の女性との子供たちの末裔 (プラナカン) の女性の呼び名。男性は「ババ (Baba)」。

参考文献
『Potehi Glove Puppet Theatre of Penang:
An Evolving Heritage』
(Georgetown World Heritage Incorporated)
Tan Sooi Beng ほか著



【ポテヒの歴史】

中国系の楽器、シンバルや太鼓などの打楽器の伴奏にのせて、色鮮やかな民族衣装に身を包んだ、全長30センチほどの人形が舞台上に登場すると、手の指先で動かされる人形の鮮やかな動きに魅了され、物語の世界に引き込まれます。中国南部・福建省泉州を起源とし、台湾や東南アジアへもたらされ、20世紀初頭に英領マラヤに伝わった「布袋戲《ポテヒ》」は、ペナン島では主に中国寺院の祭礼や葬儀、神々への奉納として演じら

れてきました。1950年代には10以上のグループが活動していましたが、1980年代には他の娯楽の台頭とともにポテヒは衰退し、現存するのは4つのグループのみです。伝統的には、寺院などでの上演では「三国志」や「西遊記」、「水滸伝」など中国古典文学をもとに正義、道徳、忠義などテーマにした物語が好まれたようです。伝統的な作品は、古典的な福建語で語られます。昨秋の来日公演では、古典「西遊記」物語が演じられ、日本でも馴染みのある三蔵法師や孫悟空、猪八戒などが

登場。一方、新しい創作作品「ペナン島の物語 (Kisah Pulau Pinang)」は、19世紀末から20世紀初頭のペナン島を舞台にした物語。中国から渡ってきた男性が現地のニョニヤ系の女性と恋に落ち、結婚。インド系ムスリムの交易商カッシムとの関わりや、秘密結社の戦い、ライオンダンス、大旗鼓《チンゲイ》、ロンゲンなど、ペナンの芸能も登場。マレーシアならではの舞台設定、そして登場人物が中国語、マレー語、英語など多言語で会話します。マレーシアの民話など馴染みのある音楽も取り入れるなど、若者たちをも惹き付けます。

〈布袋戲〉

お互いの民族衣装の生地で作した バジュクロンと浴衣

Traditional Clothes, Baju Kurung x Yukata



浴衣生地とは

木綿糸、麻糸、絹糸など、使用する糸の種類や織り方で、生地の種類は多様。また、職人が手で染料を注いでいく「ちゅうせん」とよばれるものなど色の染め方も様々。なかにはバティックと同じろうけつ染めの生地もある。

海を越えて、文化が交差。マレーシアと日本の民族衣装をお互いの国の生地で作りました。これは、2017年に挑戦したWAUリニューアルのためのクラウドファンディングの特典として、Hati Malaysiaが独自に企画、制作したもの。企画に賛同し、仕立てを担当してくれた職人の制作現場をたずねました。



イーメイさんの娘、セフリンさんが試着！



仕立て人
イーメイ
Ee May

マレーシア・ジョホールにて、バジュクロンやバジュクバヤなど女性の衣装を44年間作り続けている。

バジュクロン

とは、マレーシア人の女性、なかでもマレー系女性の民族衣装のひとつ。上着とスカートが分かれたツーピースで、手首までの長袖、足くるぶしまでのロングスカートというように、からだ全体を覆うように仕立てられています。

今回、バジュクロンのために用意した生地は、日本橋の呉服店「辻和」で購入。女性用の浴衣生地で、幅は約40センチ×長さは約12メートルの「反物(たんもの)」で用意しました。

仕立て歴44年のイーメイさんは「いつも1メートル幅の生地で作っていますが、今回の日本の生地はその3分の1ぐらいしか幅がありません。これは一般的な女性の肩幅とほぼ同じサイズ。後ろみごろを1枚で仕立てるバジュクロンにとっては、ギリギリの幅でした」と語ってくれました。柄の見せ方に工夫をこらし、浴衣の生地で作ったとは思えないほど、南国マレーシアらしい華やかなバジュクロンに仕上がっています。

仕立て歴44年のイーメイさんは「いつも1メートル幅の生地で作っていますが、今回の日本の生地はその3分の1ぐらいしか幅がありません。これは一般的な女性の肩幅とほぼ同じサイズ。後ろみごろを1枚で仕立てるバジュクロンにとっては、ギリギリの幅でした」と語ってくれました。柄の見せ方に工夫をこらし、浴衣の生地で作ったとは思えないほど、南国マレーシアらしい華やかなバジュクロンに仕上がっています。



バジュクロンは、マレーシアの地方ごとにスタイルがあり、今回仕立てたのは、横のカットが直線のジョホールタイプ。また、柄の出し方が職人の腕の見せどころで、胸元とすそに印象的に配置。2人の職人が、柄合わせの調整から縫製まで、2日間かけて作成した。



ミシンは使わず、すべて手縫いのため、製作期間は5日間にも及んだ。布の裁断とヘラでの印つけはいちばん神経をつかう部分。数ミリでも違っていると、全体の構成がくるとってしまう。



浴衣

とは、日本人女性の民族衣装である着物のひとつ。上下つなぎの衣装で、胴回りを紐と帯で結びます。木綿の生地が多く、着物と違って中に肌襦袢（はだじゅばん）を着ないので、もともとは湯上りに家で着ていたラフな衣装でした。現代では夏祭りや盆踊りなど夏のお出かけでよく着られています。

今回、浴衣のために用意した生地は、マラッカの衣装店「蘭香」とデパート「マイディン」で購入。紫は女性用、緑は男性用のサロン（腰巻布）として売られていたものを各3枚用意しました。

浴衣は、仮縫いなどの工程がなく、すべて手縫いで行います。また「浴衣は長い一枚の反物から仕立てるのですが、パティックは3枚をつなぎ合わせたので、柄合わせに神経をつかいました」と仕立て人の池田さん。マレーシアの生地らしい南国の花やくり返し文様が、浴衣をカラフルに彩っています。

仕立て人
池田千織
Chiori Ikeda

和裁の専門学校卒業後、7年間の着物店勤務を経て、現在は着付師と和裁士として活動中。



クラウドファンディング支援者の伊能さんに贈呈!

クロスカルチャー 民族衣装

文・古川音 Oto Furukawa
写真提供・池田千織、Lyonne Tan



「パティック」とは

溶かしたろう（ワックス）で模様を描き、染色した生地のこと。生地全体にひろがるのびやかな柄が特徴で、シルクのパティック生地は、マレーシア伝統の象徴として、国家セレモニーの衣装にも使われている。

ランカウイの 自然に包まれ 生まれ変わる

力強い命を育むマングローブ林
あらゆる生命をつなく豊かな海
真つ青な大空を優雅に舞つコン
自然保護のため、開発できる地域は
島全体の35%というランカウイで
自然の鼓動に触れる旅をした。

海水と淡水が混ざり合う汽水域に生息するマングローブ林。そのなかをカヤックは進む

生きものと共存する島

マレーシアとタイの国境に近いランカウイ島。淡路島の3分の2の広さに、約1000種の生きものが暮らす生命の王国。島民の約9割をイスラム教徒であるマレー系民族が占めるため、島いちばんの繁華街でも、ネオンがキラキラした夜の町のような喧騒はなし。風がやさしくほおをなでる、自然と調和したのどかな時間が流れています。

ランカウイの自然の源は、島の沿岸部に広がるマングローブ林にあります。「カニクイザル、カワセミ、ワシ、トビなどが生息していて、運がよければ、イルカやカワウソにも会えます。ここにいると、僕たち人間は、いろいろな生きものと共存しているんだ、という気持ちになるんです」と語るのは、ランカウイ在住16年のツアーオペレーター、タカさん。では、タカさんの案内で、マングローブ林にもっと近づいてみましょう。

カヤックで湿地帯の奥地へ

栈橋に集合し、水上のカヤック発着場までボートで移動。そこでウエットスーツに着がえたら、カヤックに乗りこみます。タカさんの声がけどおりにおそろのおそろパドルを動かすと、カヤックは素直に進みだしました。

マングローブ林が生い茂る水路をすすみ、コウモリの洞窟へ。パドルが水面をはじく音が自然の静けさにのみ込まれていきます。そして時は流れ、ふと気づけば、水平線はオレンジ色の夕焼けに。

ランカウイの伝統を今に伝える雑貨店 Pisang ピサン



マレーシアの伝統工芸品や土産物をつつかう1997年創業の店。パティックの布や絵画、コンピューター製のマグカップ、天然石のアクセサリーのほか、なまこ石けん、なまこオイル、なまこクリーム、なまこボディローション、ココナッツオイルなど、お土産用の可愛い小物から美容系まで、幅広い商品がそろつ。

Pisang No.47, Jalan Pandak Mayah 5, Kuah, 07000 Langkawi, Kedah, Malaysia
電話：+60-49-611-731 時間：9:00～18:00 (金曜定休)

ランカウイで暮らす自然の達人 ランカウイ倶楽部 石井貴弘さん



「ランカウイ倶楽部のカヤックツアーは、自然に身を委ねるのが目的です。ですので、とくにゴールは決めず、たとえばセミが鳴き始めたら終了のように、その日の自然と相談してカスタマイズします。また、カヤックツアーの帰り道、闇夜にキラメクのは満点の星空。大きさではなく、宝石箱をひっくり返したような美しさです。この景色を見せたいです!」

ランカウイ倶楽部 <http://langkawiclub.com/>
(ツアー例)「カヤック De ジャングル」RM350 (約10,300円) / 所要時間 7時間 / 2名～



ランカウイの人となまこは密接な関係にある

5, 6 万能薬のなまこオイルは、ココナッツオイル、数種のハーブ、なまこを入れて煮込んだもの。下記の店「ピサン」で販売。RM3 (27ml) 7 黄金のなまこは薬効成分を多く含むため、生で食べると苦い。現地では、生で食べる習慣はない 8 冷え性、生理痛、更年期などに効果があるといわれる伝統の子宮マッサージ。ランカウイのスパで実施中。悪い部分があると痛いのが効き目は抜群! ハーブスチーム+子宮マッサージ RM280 (90分)。要予約、問い合わせは、下記 BAKU インターナショナルの常峰さんまで



「ピサン」自社工場でなまこ石けん作り方

石けんの材料をカクハンしながら遠火にかけ、よく混ぜる。次に、なまこ水、やぎミルク、ココナッツミルクを加え、さらに混ぜる。ていねいにろ過したら、専用の型に入れて5時間。常温で固めて完成。



ランカウイ

ランカウイは、クアラルンプールから飛行機で約1時間。マレー半島西海岸に浮かぶ99の諸島のなかのひとつ。伝説がのこる神秘的な島としても知られる。また、熱帯特有のマングローブ林など、地質学的に貴重な特徴がある地域として、2007年にユネスコのジオパークに認定。島全体が免税特区で、アジア各国のみならず、欧米からの観光客も多い。



カヤックでランカウイの自然を満喫

1 ランカウイのシンボル、ワシ。ランカウイの「ラン」は、マレー語でワシの意味をもつ 2 カヤックツアーで立ち寄るコウモリの洞窟 3 湾は波がないので、初心者でもカヤックを動かすのは簡単 4 ツアーの最後は海にじゃぼん! 気持ちいい! このあと水上コテージで夕食

それは、ため息がでるほど美しい景色。まるで絵画でした。水面のゆるやかな動きに共鳴して、カヤックが静かに揺れています。自然の鼓動のようなリズムにしばし身を委ねていると、オリのように溜まっていた無用な自尊心が、あたたかく溶け出し、消えていったのです。

ランカウイとなまこ

さて、そんなランカウイの海の恵みは、人々の生活のなかに取り入れられています。それは、なまこを使った民間療法。なまこの主成分は、抗酸化作用や肌の潤いを守るといわれるコラーゲンやサポニン。マレーシア土産として人気のなまこ石けんは、もともとはランカウイで生まれたものです。

「このあたりの海には、大昔から黄色いなまこが生息しています。薬効成分を豊富に含むことから、黄金のなまこ」といわれ、大事にされています」と教えてくれたのは、現地の店「ピサン」と提携し、日本で唯一、ランカウイ産のなまこ石けんの正規輸入・販売・展開を手がけている常峰さん。たとえば、お腹の調子が悪いときに服用する「なまこ水」、虫刺されやケガのときに肌に塗る「なまこオイル」、粉末のなまこを加えた「なまこクッキー」や「なまこ珈琲」。また、女性ホルモンに働きかける伝統の子宮マッサージにもなまこオイルが使われているのです。

ランカウイの大自然に包まれていると、人間も自然の一部だ、ということを実感します。人間も自然に愛されている。ランカウイがそれを教えてくれるのです。

日本でなまこ石けんを扱う店
「BAKU インターナショナル」
<https://malaysiaelection.com/>

日本の輸入許可をクリアしたなまこ石けんを販売。アトピーテスト、アレルギーテストも実施済み。洗顔後のつっぱりが無いと評判で、なかには「洗顔後の肌のツルツル感に驚き。今まで顔を洗っていなかったと思うくらいスッキリした!」という感想の人もある。5個(各90g)セットで6500円。原材料全てにこだわった日本限定販売のなまこクリーム「namaco BODY エマルジョン」も大人気。



天然の香料を加えたなまこ石けんは、とくに洗顔におすすめ。ピンク色はピンクブルメリアの香り付きで、肌のたるみ、乾燥、シミが気になる人へ、紫色のランバダーはニキビや吹き出物が気になる人におすすめ。各7.9リンギット(Mサイズ)。そのほか、シアバター入り(RM8.9)もある。

音で訪ねるマレーシア

第2回

多民族国家であるマレーシアには様々な伝統芸能や音楽があり、それぞれに特徴的な楽器があります。今回はマレー系の伝統楽器「コンパン」を紹介します。

遠くから近づいてくる太鼓の音、近くに迫ってくると体中に音が響きわたり、胸が高鳴ります。複数人のアンサンブルで演奏される片面太鼓「コンパン (Kompang)」は、13世紀頃、アラブ商人らによって中東から現在のインドネシアやマレー半島にもたらされたと考えられています。アラブの神や預言者ムハンマドを讃えるイスラム教の詩や歌の伴奏などに使われ、マレー人らを魅了したのです。



文・写真 上原亜季 Aki Uehara (Mutiar Arts Production)

木製の浅いフレームの片側にヤギ皮でできた面が張られています。左手で太鼓を持ち、右手で面を叩きます。コンパンのアンサンブルは、3つのグループに分けられ、それぞれ違ったリズムパターンを演奏します。この3つのリズムパターンが重なり、アンサンブル全体のリズムが生まれます。

現在、コンパンは、結婚式やイスラムの宗教行事、ナショナル・デーの行進、公の催しにおけるVIPの到着時など、様々な場面で演奏され、その賑やかさで会場の空気をグッと晴れやかなものにします。

※Hati Malaysiaのウェブサイトにて、コンパンの演奏の様子をご覧ください。

Art by the Art

#2

マレーシアと日本の本の文化交流イベント

BUKU JALANAN

ブック・ジャラナン×ひと箱古本市

ブック・ジャラナン by ジクリ・ラーマン×ひと箱古本市

日時：2018年5月12日(土) 10:30-17:15

会場：BAZAAR Cafe

ジクリ・ラーマン含め、ジョン・ササキ、クララ・ヴェニス、武谷大介、東野雄樹など各国から招聘されたアーティストの作品もANEWAL Galleryや現代美術製作所など上京区内各所にて発表予定。4月下旬～5月上旬。詳細はANEWAL GalleryのHPにて随時公開。

http://gallery.anewal.net



- ① 定期的に月に2回開催されているKLのブック・ジャラナンの様子。
- ② 交換会や読書会に繰り出される書籍は寄付によって集められている。
- ③ 4周年記念イベントではKLの街角にインスタレーションも展示。
- ④ 繰り広げられる公開討論に参加するジクリ氏 (左より2人目)。



情報規制の厳しいマレーシアで、規制にとらわれずに面白いと思った本を公共の場でシェアする「ブック・ジャラナン (Buku Jalanan)」という活動。発起人はマレーシア人のジクリ・ラーマン (Zikri Rahman) 氏。そのコンセプトは世界に広がり、現在すでに90以上の国や地域でさかんに活動が行われています。この春、京都市上京区のBAZAAR Cafe (バザールカフェ) に、マレーシアの面白い本と一緒にジクリ氏がやってきます。本を通して人との交流を楽しむ日本の文化「ひと箱古本市」とのコラボイベントで、当日は、京都で本文化を広める活動をしている団体とのトークイベントも予定。規制の強い国で出版社も経営する氏の出版への思いや、本を通したコミュニケーション作りなど、ジクリ氏の経験談は、本好きだけではなく、多くの人の心に響くはず。また、会場では落語やピリオオバトルなどの日本文化も楽しめるほか、この日限りの限定グルメも味わえるとか。本を通した異文化交流を満喫してみませんか。



マレーシアで販売シェア No.1*

○ 脂ののったいわしとさばを厳選!

アヤム
AYAMいわしとさばのトマトソース煮

○ このままでもアレンジしても

*2016Nielesen マレーシア調べ

輸入販売元:日仏貿易株式会社

製品情報やレシピはこちら

www.ayam.jp



マレーシア・ボルネオ地域専門旅行会社
MALAYSIA RESORT CLUB
THE MYSTERIOUS MAN OF THE FOREST
TOKYO・JAPAN

創立33年の豊富な実績と知識で、お客様の希望をサポート。また、訪日観光客向けの日本国内ツアー、観光バスなどのサービスも行っていきます。

マレーシアリゾートクラブ
(株)エムアールシージャパン
東京都知事登録旅行業 3-5248号
<http://mrcj.jp>

ランカウイ島の自然の恵みで
あなたの肌が生まれ変わる

インターネットでも購入可能
MALAYSIA selection ホームページで5000円以上お買い物をしていただき、LINE お友達追加をしていただいたお客様には
4月発売開始予定の日本限定商品、
なまこ美容液と顔用なまこクリームのサンプルをプレゼント。

なまこ石鹸正規認定販売会社
BAKU インターナショナル株式会社
大阪府茨木市春日1丁目9番32号
TEL:072-658-6851

Editors (Hati Malaysia)



上原 亜季
Aki Uehara

ムティアラ・アーツ・プロダクション代表。AFS 生として一年間マレーシアの高校に留学。Universiti Sains Malaysia の大学院にてマレーシアの伝統芸能の研究を行い、修士号取得。国際文化会館勤務を経て、現職。東南アジア芸能コーディネーター、イベント企画・制作、記事執筆、マレー語通訳・翻訳。



mutiaraarts.pro



古川 音
Oto Furukawa

編集ライター。首都クアラルンプールに4年滞在した経験を活かし、「All About」や「CREA」ウェブサイトにてマレーシアの記事を執筆。また「マレーシアごはんの会」にてイベントや料理教室を主催。昨年念願の著書『ナシレマツ!』を発売。現地ごはんツアーも開催。マレーシアごはんの会



malaysianfood.org



高塚 利恵
Rie Takatsuka

映像プロダクション、株式会社オッドピクチャーズ代表。インディペンデント映画プロデューサー。日本国内にて映像によるプロモーションの企画、撮影。マレーシアの映像制作プロダクション(ODD PICTURES MALAYSIA)と連携した映像・映画製作など。



株式会社オッドピクチャーズ
odd-pictures.asia



Hati Malaysia

私たち Hati Malaysia は、上原亜季(マレーシアほか東南アジア伝統芸能コーディネーター)、高塚利恵(映画・映像プロデューサー)、古川音(マレーシア料理愛好家/ライター)の3人メンバーからなる、エキスパート集団です。マレーシア文化通信フリーペーパー「WAU(ワウ)」の編集発行、マレーシア文化講座(芸能・映画・ごはん)の講師、そのほかイベントや現地ごはんツアー等を企画、開催しています。また、WAUにて取材してほしい、取り上げてほしい題材があれば、どうぞお気軽にご連絡ください。 Email: info@hatimalaysia.com



陳 維錚
TAN JC

デザイナー、現代アート作家。ジョホール出身、96年来日。山形の東北芸術工科大学映像専攻卒、京都精華大学芸術学博士課程出身。京都を拠点に国内外にてメディアアートを中心にクリエイティブ活動中。創刊号から『WAU』アートディレクションを担当。

tanjc.net

released a book NASI LEMAK

『ナシレマツ!』本、出版しました!

マレーシアの国民食「ナシレマツ」とは? ナシレマというひとつの料理から、マレーシアの多様な食文化の神髄に迫る!

「語りたいナシレマツ」の章では、料理研究家のコウケンテツさんをはじめ、ナシレマツ好きの方にインタビュー。また、マレーシア人シェフによるレシピ公開、ナシレマツが食べられるお店紹介(日本、マレーシア)まで。これを読めば、あなたもすぐにナシレマツ通!

→ なぜ、ナシレマツなのか。

・さまざまな味、いろんな食感を混ぜることを好むマレーシア人。個性の異なる具をミックスして食べるナシレマツは、多民族がともに暮らすマレーシアそのものである。

・調理人の民族を問わず、店舗設備のよしあしを問わず、まっとうな実力主義でナシレマツ店の評価は決まる。それは、マレーシア人の食にたいするモットー。

ナシレマツ!



「ナシレマツの本を書いていたら、私の心にある『ナシレマツ』を思い出しました。家族が好み、幼いころよく食べ、けって派手な料理ではないけれど、思い出すと、ふっと肩の力が抜ける、あのごはん。きつと『ナシレマツ』は誰の心の中にもあるのです。その小さな味が、今のあなたを勇気づけているのです。」
(古川音)

マレーシア人は、ナシレマツがとても好きだ。毎日食べる人もいる。複数の民族がともに暮らすマレーシアでは、民族ごとに伝統の味があり、宗教によって食事はそれぞれ異なっている。ところがこのナシレマツは、民族を越え、世代を超え、エリアをまたがり、あらゆる人々に好まれ、そして昔とほぼ変わらない姿で今も大事にされている。あるマレーシア人はこういう。
「なぜナシレマツが好きかって? それは僕がマレーシア人だからさ」と。
(本文より抜粋)

→ 読者の声

危険な本ですね、カバーを見るだけで腹が減る…… (Sさん)

究極にポジティブなエネルギーとそして何よりも深い、深いマレーシア愛を合わせ持った音さんだからこそできた素晴らしい本だと思います!

私のインドネシアのナシレマツ(インドネシアだとこの発音に近い。ナシ・ウドックともいう)の写真と情報も載っています。

ナシレマツはみんな大好きな国民食! ナシレマツにまつわる色々なストーリーとレシピも楽しい。

本当に良い本です。皆さま是非! (Aさん)

Very proud of our friend, Oto Furukawa for this fantastic book about nasi lemak. It'll be hot (selling) like sambal. (Jさん)

ナシレマツの魅力と美味しさがぎゅっと詰まった一冊です。この本を通して、マレーシアの食文化や人々の生活が感じられたような気がします。また先日、マレーシアからの留学生とお話をする機会がありました。言葉はうまく伝わらないですが、この「ナシレマツ」本の画像が打ち解け合うきっかけに。ナシレマツが恋しい留学生に、都内でナシレマツを食べることができるお店を紹介しました。喜ぶ姿を見ると、本当に「ナシレマツ」が国民食であることを実感しました。(Tさん)

シンプルなメニューをこんなに深く掘り下げる取材力がすごい! (Tさん)

本の内容はまさに私たちマレーシア人の思いを代弁していると思います。(Lさん)

→ 日本でもここで、ナシレマツが食べられます!

五反田「チキンダイニング ちりばり」/池袋「マレーチャン」/浜松町「ペナンレストラン」/荻窪「馬來風光美食」/渋谷・横浜「マレーアジアンクイジー」/八丁堀「マレーカンボン」/大塚「ラムリ」/大阪「ケニアアジア」/静岡「アジアンダイニングキッチン 韻彩」など

※詳しい情報は Web へ!

マレーシアごはんの会 検索

『ナシレマツ!』日本語 著者: 古川音 (Oto Furukawa, Malaysia Gohan Kai) 編集協力: ferment books A5 版変形 / 98 ページ / 1400 円 + 税

●販売場所: 中国・アジア専門書店「内山書店」、レストラン「マレーアジアンクイジー 渋谷店」(東京)、「cafe room basisA」(東京)、「KENNYasia」(大阪) など。Amazon、直販もあり。問い合わせ先 www.malaysianfood.org oto@malaysianfood.org